

科目名	工業簿記	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			経済学科	□ 必修	■ 選択
			学科	□ 必修	□ 選択
英文表記	Industrial Bookkeeping	開講年次	■ 1年 □ 2年 □ 3年 □ 4年		
		開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中		
ふりがな	おおかわ ゆうすけ	実務家教員担当科目	○	修得単位	2単位
担当者名	大川 裕介	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	製造業における製造活動の記録・計算について理解しよう。				
到達目標	日商簿記検定2級（工業簿記）の基本をマスターし、簿記検定試験の合格を目指す。				
授業概要	工業簿記は、製品の製造活動を複式簿記により記録・計算する簿記である。本講義では、工業簿記の基本的な記帳技術を習得と原価計算の計算構造に関する基礎について授業を行う。テキストとしては、解説と問題集が一体となった教科書を用い、授業中にも問題演習を行う。				
授業計画					
第1回	工業簿記の基礎				
第2回	費目別原価計算① 材料費の計算				
第3回	費目別原価計算② 労務費・経費の計算				
第4回	個別原価計算				
第5回	部門別個別原価計算① 部門個別費と部門共通の集計・補助部門費の配賦				
第6回	部門別個別原価計算② 製造部門費の配賦				
第7回	総合原価計算①				
第8回	総合原価計算② 工程別・組別・等級別原価計算				
第9回	総合原価計算③ 仕損・減損など				
第10回	工業簿記における財務諸表				
第11回	本社工場会計				
第12回	標準原価計算				
第13回	直接原価計算				
第14回	第1回から第14回までの復習				
第15回	日商簿記2級の模擬試験(工業簿記)および解説 ※受講生の理解度等により、講義の順番を変えることがある。				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・簿記入門Ⅰ・Ⅱ①の内容を理解しておくこと。 ・初回の授業前に、テキスト冒頭の「スタートアップ講義」を熟読しておくこと。 ・授業終了後に1時間半程度の復習を行うこと（テキストの問題編の該当部分を解く）。 				
履修条件 受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・簿記入門Ⅰの内容を理解していることを前提に授業を進める。なお、授業内容に対する関心度と理解度を把握するために、質疑応答を行う。 ・どうしてもやむを得ない場合を除き、欠席、遅刻はしないこと。 				
テキスト	『スッキリわかる日商簿記2級工業簿記 第9版』滝沢ななみ著、TAC出版、令和3年 そのほかにもプリントを配布する。電卓（12ケタ以上）を持参すること。				
参考文献・資料	講義中に紹介する。				

成績評価の方法	<p>授業態度 (30%)、定期試験 (70%) 上記評価項目を基にして総合的に判断する。 ※授業態度は、授業内容に対する関心度と理解度を質疑応答において評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の金額を納めていない場合は試験を受けることができない。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。
オフィスアワー	月曜日および火曜日の空き時間
成績評価基準	秀 (100～90 点)、優 (89～80 点)、良 79～70 点)、可 (69～60 点)、不可 (59 点以下)、
実務経験及び実務を活かした授業内容	公認会計士としての実務経験や資格試験・検定試験の合格経験を活かし、実践的な授業を行う。
学生へのメッセージ	数多くの問題をこなすことが簿記を習得する早道なので、テキストに付属する問題を繰り返し解き直しましょう。簿記2級合格できるように頑張りますので、受講生も頑張ってください。